



人と企業とNPOをつなぐ市民情報紙
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

おらみネット

●発行日 / 2012年12月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

生涯自分らしく
生き生きと暮らしたい!

高齢者支援

NPO 法人

アンダンテ参画 21

2

NPO法人どこでも介護 ⑥

NPOのIT活用術

株式会社アットスクール ⑤

世間よし〜企業の社会貢献〜

認定NPO法人をどう存じますか?
〜誰もが社会を支える主役になる〜

特集★OHMI視点 ①

元気印 NPO ③

内外の視点を生かした
まちづくりに取り組む

まちづくり

KOKOKU

6

元気印 NPO ②

地球環境を考えつつ
薪ストーブを燃やし続ける

環境保全

こなんの森・薪割りくらぶ

4



認定NPO法人をどう存じますか？

（誰もが社会を支える主役になる）

東日本大震災の支援では多くの市民活動団体（NPO）や特定非営利活動法人（NPO法人）が被災者の心のケア、子どもたちの支援、「コミュニティづくり」など多様な分野で活躍している様子が報道されました。多くのNPO法人は、広く社会や地域に貢献する活動をしています。さらに人々から共感を得て寄付で支えられていると認定された団体が「認定NPO法人」です。今回は、認定NPO法人についてご紹介します。

認定NPO法人制度と寄付で支え合う社会

特定非営利活動法人シリーズ・市民活動を支える制度をつくる会

関口 宏聡（せきぐち ひろあき）さん

●寄付は社会貢献・社会変革に参加する方法の一つ

皆さんは最近「寄付」をしたこと、ありますか？東日本大震災があった昨年は、国民の約8割が寄付をし、寄付額も過去最大になったと推定されており、二〇一一年は「寄付元年」と言われています。今回の震災では、日赤や自治体へ寄付され被災者へ配られる「義援金」と、NPOやボランティア団体へ寄付され被災者支援活動に役立てられる「活動」支援金」双方に多くの寄付が寄せられました。NPO法人などの団体を通じて、いち早く、機動的な支援をしたいと思った方が多かったです。

滋賀県を見ると、約五八〇ものNPO法人が、福祉やまちづくり、環境など様々な分野で地域の社会貢献に活躍しています。しかし、多くの団体は活動資金不足に悩まされていますが現状です。皆さんからの寄付は活動を支える貴重な資金であるのと同時に、社会貢献・社会変革に参加する気軽な方法の一つです。東日本大震災で発揮された、日本の助け合い・支え合いの文化を、常日頃から寄付を通じて培っていききたいですね。

●新寄付税制で、寄付を通じた社会変革の可能性が広がる

とは言われても、どこに寄付

したらいいのかわからないという方も多いのではないのでしょうか？また、ある程度税金の知識があれば、できれば寄付金控除の対象となる先に寄付したいという方もいるかもしれません。

現在、日本の寄付税制（寄付に関する税金の制度）では、所得税や個人住民税を納めている個人が、滋賀県（所轄庁）から認定を受けた「認定NPO法人」や公益財団・社団法人、社会福祉法人、学校法人などに寄付をすると、寄付者の納税する所得税や住民税が減税になります（寄付金控除）。国や地方自治体が減税を通じて、皆さんの寄付を応援しようという政策が採られているわけです。これまで寄付

認定NPO法人はどのような団体でしょうか

認定NPO法人は、寄付による収入が全体の収入の二十%を超えているか、あるいは平均的に毎年三千円以上の寄付を百人以上から集めているNPO法人で、社会の公益的な活動をしていると所轄庁から認められた団体が認定NPO法人に認定されます。

みなさんは寄付をする場合、何を気にしますか？何のために寄付を集めているのか？寄付したお金は何に使われるのか？寄付したことで何が変わるのか？寄付によって誰の役に立つのか？などについて、気になるのではないのでしょうか。認定NPO法人や寄付をたくさん集めている団体は、これら寄付をしようと思う人の気持ちに分かりやすく応え、ホームページやニュースレターなどを使って活動について多くの人に伝えていく団体と言えます。

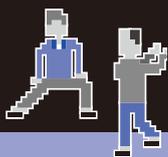
もちろんNPOの収入は寄付だけではありません。主にNPOの収入は下記の五種類があります。

- ①会費（積極的に参加して運営を支えようという人や団体からの収入）
- ②寄付や賛助会費（目的や活動に共感し、応援しようという人や団体からの収入）
- ③事業収入（サービスの提供や商品の販売などによる収入）



関口 宏聡（せきぐち ひろあき）さん

1984年生まれ、千葉県出身。2003年から環境NPOにて子ども自然体験活動などを行い、2009年、東京学芸大学卒業。2007年6月からシーズに勤務し、2010年の日本ファンドレイジング協会設立に尽力。2011年の「新寄付税制・NPO法改正」実現では、市民側の中心的役割を果たし、現在この活用促進のため、NPO・市民への普及、議員・行政へのロビー活動に奮闘中。奈良市NPO法人条例指定制度検討委員会委員（2012年～）他。



設立●2004年
代表●阿部美智子(あべ みちこ)
会員●52名(正会員・フレンド会員・にこにこサロン会員)
連絡先●彦根市小泉町310番地9
TEL・FAX 0749-23-0007

生涯自分らしく いきいきと暮らしたい!

活動は1984年、「女性がいきいき暮らすための生活文化を考える会」から始まり、2004年に「NPO法人アンダンテ参画21」ができました。現在、メンバーには建築士や会社会長、



▲最後はみんなで輪になって(歌う会)

看護師、調理師、県職

員・学校の先生のOB、主婦などがおり、「生涯自立し自分らしく生き生きと暮らすため、今、何をしたらよいか」をテーマに活動しています。

3か月に一度「歌って楽しくみんなで元気になろう会」を開催し、毎回60～70名の参加者と、歌ったり、踊ったりしています。「来てよかった!」と満足して帰ってもらうにはどうしたらいいかといつも話合い、特に電話やFAX・メールやチラシで、つながりを強めています。また、月2回の連続講座、脳リハビリ「にこにこサロン」では高齢者を対象に身体や頭を使うゲームや楽器の演奏などを楽しんでもらっています。他には、「自力整体講座」「なんでも語り合う会」を開き、さらに男女共同参画や生涯いきいき暮らすことなどを



▲輪投げ(にこにこサロン)

をテーマに、出前講座を行っています。2011年度は彦根市内外へ13回も講師を派遣しました。

代表の阿部さんは「『歌う会』や「にこにこサロン」「自力整体」に来ている方が今

後も元気でいられるように活動を続けて行きたい。課題はメンバーも高齢化してきているので、後継者を見つけること。とても楽しいのでぜひ一緒に活動しましょう。」と呼びかけています。

(おうみネットサポーター 山名朋希)

税制は、アメリカなど諸外国と比べて貧弱なのが問題でした。しかし、昨年六月に大胆な拡充が行われ、制度が生まれ変わりました(新寄付税制)。今、寄付税制オリンピックがあるとしたら、表彰台(トップ3)が狙えるくらいです。

も持っています。市民がもっと社会に関心を持ち、賛同できる認定NPO法人などへ寄付をすることで、寄付だけでなく税金を含めた公共資金の流れを、大きく変えることが可能になったのです。寄付を通じて、市民が未来を選択できるようになったとも言えます。



●「認定NPO」制度で滋賀を元気に!

全国には約二八〇の認定・仮認定NPO法人がありますが、残念ながら、滋賀県には未だ一団体もありません。実は、新寄付税制と合わせて、認定を取るための条件も、四月から大幅に緩和されています。滋賀県のNPO・市民活動を元気にするためにも、ぜひ、認定NPO法人制度や新寄付税制をフル活用してください!

Column

④ 補助金・助成金(特定の事業に対して、経費の支援を受けた収入)

⑤ 委託金(主に自治体や国などから特定の事業を請負うことによる収入)

これらの収入源をバランス良く持つことで安定した運営になると言われています。しかし、電話での心のケアや犯罪被害者への支援など、サービスの提供が収入につながらない活動はたくさんあります。

認定NPO法人制度は、社会に必要とされている活動を市民一人ひとりの寄付で支える仕組みです。



認定 NPO 法人
チャイルドライン支援センター
(2009年、認定NPO法人に認定)

東京都新宿区住吉町 8-5 曙橋コーポ 2F
TEL : 03-5312-1886
URL : <http://www.childline.or.jp/supporter/index.html>
「チャイルドライン」で検索

子どもの声を受け止める電話です

チャイルドラインは、18歳までの子どもがかける電話です。1970年、北ヨーロッパで生まれたチャイルドラインは、現在世界130カ国以上で実施されており、お説教や押しつけなしに、子どもの声を聴き、気持ちに寄り添います。自分の気持ちを聞いてもらった子どもは少し自信を取り戻し、自分の力で歩き出すことができます。年間20万件を超える電話をフリーダイヤルで受けるために、1年間に約2000万円の費用がかかります。年3000円の寄付で5人の子どもがチャイルドラインで15分間通話できます。子どもの自殺が毎日1.6人という現代社会でチャイルドライン支援センターは各地でチャイルドラインを実施している団体や準備している人を支援し、連携しながら活動しています。



認定 NPO 法人
**シャプラニール = 市民による
海外協力の会**
(2009年、認定NPO法人に認定)

東京都新宿区西早稲田 2-3-1 早稲田奉仕園内
TEL : 03-3202-7863 火～土 10:00～18:00
URL : <http://www.shaplaneer.org/>
「シャプラニール」で検索

遠いを近いに

シャプラニールは、働く子どもや女性など、開発から「取り残された人々」の支援に取り組む国際協力NGOです。1972年から活動を始め、バングラデシュに2名、ネパールに1名の日本人駐在員を配置し、現地の団体とともに支援を続けています。遠い国への支援としてではなく、私たちの過剰な消費生活を見直し、問い直しつつ、私たち一人ひとりができることを提案しています。使用済み切手、読み終わった本など身近にあるものを捨てずに海外協力として活かす「ステナイ生活」。月々1000円の寄付が働く子どもたちの未来を変える「マンスリーサポーター」制度。現地で生産されたクラフトなどを購入して応援するフェアトレードなど、広く市民が協力できる活動をインターネットやニュースレターなどで広く伝えています。



※NGO(Non-Governmental organization)とは、非政府の組織という意味です。海外協力活動を行う市民活動団体は、政府や国連の組織と区別しています。

認定 NPO 法人
JUON (樹恩) NETWORK
(2011年認定NPO法人に認定)

東京都杉並区和田3-30-22 大学生協杉並会館5F
TEL : 03-5307-1102 URL : <http://juon.univcoop.or.jp>
「樹恩」で検索

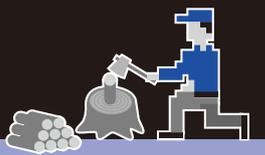
都市と農村、人と自然、世代と世代をつなぐ

樹恩ネットワークは、自然と向き合う知恵と技を学び伝える場を提供し、都市と農山漁村の循環と世代をこえた人々のつながりを取り戻すために活動しています。全国の過疎化する農業や林業の場で、伝統や地域文化を学びながら農家を応援する「田畑の楽校」や森づくりを体験から学ぶ「森林の楽校」を開催しています。その活動拠点としては、

廃校を活用した宿泊施設なども利用しています。子ども時代に学び、遊び、育った地域のシンボルである学校を、地域を学ぶための場として活用しているのです。都市と農山漁村を結びリーダーを育てる「エコサーバー」や「森林ボランティア青年リーダー養成講座」など人材の育成にも取り組んでいます。なお、国産間伐材を使った「樹恩割り箸」は、日本の森林を守り、障害者の仕事をつくる、都市と農山村を結び「かけはし」です。



環境保全



代表●小岩 博和(こいわ ひろかず)
 設立●2008年 会員●24名
 連絡先●〒520-3321 湖南市三雲2030-96 田代 方
 TEL : 0748-72-1871
 E-mail : momo-tashiro@paw.hi-ho.ne.jp
 URL : http://www.geocities.jp/yosh828/
 makiwariclub.html

認定 NPO 法人 市民活動センター神戸

(2010年、認定 NPO 法人に認定)

兵庫県神戸市中央区元町通 6-7-9 秋毎ビル 3F
 TEL : 078-367-3336
 URL : http://www.kobekec.net/
 「市民活動センター神戸」で検索

市民がまちを創る社会をめざして

市民活動センター神戸は、市民が自発的に社会や地域の課題を発見し、その解決に向けて取り組む団体や個人の活動をサポートしています。広く市民や企業、行政に対して市民の取り組みを知らせ、働きかけ、市民による自主的な活動がより活発になる社会となるよう活動しています。特に、2012年度に始めた「共感寄付～しあわせな未来はわたしが選ぶ～」は、社会の課題解決に取り組む活動を広く市民に伝え、市民が活動を選び寄付をする仕組みです。市民が活動の背景を知り、共感をもって寄付することで、社会の課題解決に参加できる機会をつくり、誰もが社会を支え、未来のまちを創ることができます。



※共感寄付のサイトは
<http://http://kobekec.net/kyokan/> です。

淡海ネットワークセンターでは、滋賀県新しい公共支援事業を受託して、認定 NPO 法人の認定を希望する団体への支援を行っています。市民からの信頼性と公開性の高い市民活動団体が増えることで、誰もが、地域や社会を支える市民による活動を知り、自ら応援したい活動を選択して寄付で支えることができる社会が広がります。

淡海ネットワークセンターでは、市民活動への支援をとおして、誰もが社会を支える主役になれる社会をめざして活動しています。

「思いはグローバルに 行動はローカルに」 里山と薪ストーブを繋ぐ

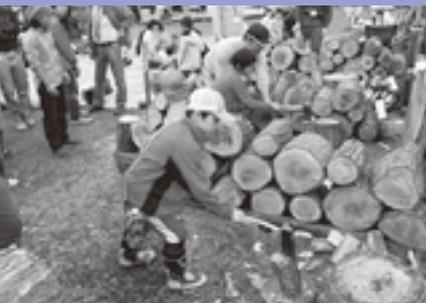
原発事故をきっかけに自然エネルギーへの関心が高まっています。そんな時代を先取りし、自然エネルギーである薪を燃やすストーブを使いながら、里山保全にも取り組んでいるのが「こなんの森・薪割りくらぶ」のみなさんです。



▲村の道普請で支障木も伐採、草も刈ってキレイにします。間伐された木は薪になって心と体を暖めます。

薪ストーブライフを楽しむためには、なんとと言っても薪が必要です。もちろん買うこともできるのですが、薪割りくらぶのみなさんは甲賀市今郷地区などの里山保全活動しながら、その過程で間伐した木材をもらい、それを自宅の薪ストーブで燃やしています。環境保全と地域貢献をしながら薪入手も同時に行う、WIN-WINの素晴らしい活動です。

活動では「脳みそと体に汗をかいて、地道に進んでいくことが大切」と幹事の田代さんは熱く語ります。机上の空論を



▲「里山の秋を楽しもう」植樹祭を毎年1回開催しています。薪割り体験で盛り上がりました。

重ねるのでも、他人のいいところを真似するのでも、とにかく規模を拡大していくのでもなく、本当に思いを同じくする仲間が集まって黙々と活動を続ける真摯な姿勢が印象的でした。その活動は今郷地区住民の方々にも

受け入れられ、村の方々と薪割りくらぶのメンバーが、共に協力できるよう村の行事日程をずらしてくれたとのこと。薪割りくらぶが村に溶け込んでいることがよくわかります。

今後はさらに地域に溶け込み、地域と協力して深みと広がりのある活動を目指しています。それと同時に、薪割りくらぶを分派して思いを同じくする団体を増やし、交流して活動範囲を広める計画も。地球環境を考えながら、周りの人と共に薪ストーブを燃やし続けます。

(おうみネットサポーター 小林政夫)

市民活動への期待

開始時が一番の盛り上がりではない組織作りを。

どんな組織でも理念を掲げて、活動を開始する。開始時には一番熱が入り、色々と議論や工夫をし、賛同者を求めたりする。その事がとても楽しく、やりがいを感じるものだと思う。時間が過ぎて一応活動の見通しがついた頃から大変だ！が始まる。決めたことをこなすことにばかりに注意が払われて、楽しかったことが苦痛になって行くことがしばしば起こる。人材不足、資金不足、場所の問題、人間関係etc

市民活動にとって一番大切にしたいことは人と人のつながりだと思う。理解しあっていたはずなのにわかってもらえていなかったというコミュニケーション不足が最大の原因ではないだろうか。人の立場に立って考えることが出来ているかを見つめ直して、活動をしたいものだ。

次々に新しいアイデアを出し、事業を膨らませることも、活動を活発にすることになるし、仲間との話し合いの時間を持つきっかけにもなる。別の組織との連携や協働も新しい仲間との出会いになり、自分達の活動を見直す良い機会となる。無い物探しではなく、仲間と共に工夫をすることで活発な市民活動として欲しい。



人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める メッセージコーナー

NPO法人しみんふくし滋賀
専務理事 成瀬 和子(なるせ かずこ)さん

世間よし ~企業の社会貢献~

株式会社アットスクール

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

草津本校 滋賀県草津市大目1丁目18-28 藤井ビル2F
電話：077-565-7337 FAX：077-565-7347 ホームページ：http://www.at-school.jp

できることから始めよう。不登校の子ども達がいなくない社会へ

株式会社アットスクールは、草津市を拠点に発達障害や不登校の子ども達に特化した学習塾を経営している。代表の鈴木正樹さんは、滋賀県産業支援プラザの起業支援を受け、2005年に起業。アットスクールは、これからどのような社会を目指し貢献していくのか、代表の鈴木さんに聞いた。

鈴木さんは起業する前、教育相談員をしていたころ「うまく話せない」、「手先が不器用」、「勉強がきらい」という学業不振や不登校につながりかねない相談を年間200件以上も受けていたという。このことに問題意識を持った鈴木さんは、勉強会や研修会に参加するなどして理解を深め、不登校になる理由として子ども達の努力不足だけではなく、発達障害が深く関係していることに気が



▲保護者との面談風景。子どもに合った学習支援は何か、丁寧に面談をして一緒に考える。

付いた。現在、アットスクールでは、子どもたちの個性やニーズにあったオリジナル教材や教育システムを開発し学習支援に取り組んでいる。

また、子ども達が地域と

接点を持ち、これから社会に出て生きていくことがイメージできるように、地域イベントを年に一回行っている。地域の人との関わりでパン屋さんを体験。マ



▲生徒に個別指導を行っている風景。

イはしづくり、ランプシェードづくりなどを地域の協力を得て行ってきた。「発達障害、不登校の子ども達への学習支援をするだけでなく、もう一歩踏み込んで子ども達を社会へコーディネートする役割を持ちたい」と鈴木さんは語る。

アットスクールは、発達障害への理解が浸透し、不登校の子どもがいなくない社会を目指し活動している。現在、大阪にも教室を開き、約400人の子ども達が通う。鈴木さんは「企業や地域、学校と協働して子ども達が成人したあとの自立就労するための雇用を創りだすことができれば」と今後の夢に力をこめた。「できることから始めよう」。代表の鈴木さんの語るこの言葉は、子ども達に、そして社会に響く。

(淡海ネットワークセンタースタッフ 膽吹 憲吾)



代表●笠原 憲(かさはら けん)
 設立●2010年 会員●運営スタッフ13名
 連絡先●長浜市大路町18-31
 TEL: 0749-74-3671
 FAX: 0749-74-3617 (担当 佐野)
 E-mail info@kokoku.org
 URL https://www.facebook.com/KOKOKU.shiga

ふるさと湖北を もっと好きになるために 10年、20年先を見つめたまちづくり



KOKOKUは、20歳代・30歳代の湖北出身者や在住者からなるまちづくり集団。東京で働く笠原さん(旧高月町出身)が、魅力的な資源がある一方で人口減少が進む湖北に危機感を持ち、誇りと愛着を持つコミュニティ・デザインに取り組もうと同世代の方々に呼びかけて2010年に結成。

まちを大学のキャンパスに見立てて地域住民が先生となり、湖北の魅力を経験する「コホクキャンパス」の活動では、木之本のまち

歩きや高月での郷土料理体験などを企画。当たり前と思っていることが他者からの評価により価値あるものとして再発見できることから、参加者は地元7割、他地域3割に設定するという工夫もされています。また、県外の湖北出身者に呼びかけて東京で交流会を開催し、都心部から湖北へのUターン者の体験談を聞いて、自分たちが今後どのように湖北に関われるかを語り合う場づくりも行っています。

運営メンバーは、全員湖北出身者で、居住地が地元6名、県外7名の計13名。広告代理店、webプロデューサー、建築家など創造性を発揮する仕事についている人が多く、個々の技能や価値観の違い、内外の視点をまちづくりに生かそうと、フェイスブックやスカイプを駆使し、物理的な距離をカバーしながら活動を進めています。

10年、20年先の湖北が楽しく暮らしやすい地域であるために、人とまちの関係を再構築する活動の次のステップとして、組織力強化のために何らかの法人格の取得を検討中とのこと。

(おうみネットサポーター 小林由季)

まちを大学のキャンパスに見立てて地域住民が先生となり、湖北の魅力を経験する「コホクキャンパス」の活動では、木之本のまち



▲東京で開催されたKOKOKU Tokyo 前のスタッフミーティング風景。各地の湖北出身者が集っている。

NPOのIT活用術!

NPO法人どこでも介護
<http://www.dokodemo-kaigo.com/>

「使ってくださる方あつての協働作業」をモットーに
 温かなふれあいと安心感が伝わるサイトを作成



「旅は最高のリハビリ」という思いを大切に、介護が必要な人の旅行や外出を支援する活動を行っている「どこでも介護」。ロゴマークの四葉と明るい色づかいが印象的なサイトです。代表の大西さんは「見た人が元気で明るい気持ちになるように」と、利用者の方の元気な姿を写真で掲載。またブログでは介護されているご家族との関係にもふれ、単なるデリバリー的なサービスでなく、いくつになっても安心して出かけられる社会づくりの活動であることを伝えています。このような明るく活き活きした印象と、スタッフの顔写真やコメントを公開している安心感などが評価され、滋賀WEB大賞2012最優秀賞を受賞されました。ネットでの情報発信で「取材以来が増えた」「営業ツールになった」「スタッフの意識が高まり、意欲につながった」などの効果が上がっている、ということです。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

「おうみ未来塾」で、私の得たもの
 ～「チャーハン」と「混ぜご飯」の“金言”～

3期生 吉見 精二(よしみせいじ)
 グループ：グリーンツーリズムG
 「子ども感動体験学習研究会」

当時の塾長である日高敏隆先生の言われた「チャーハン」と「混ぜご飯」のお話ですが、“目から鱗”の例えどおり、私の生き方を変えたと思います。チャーハンは素材を油でまるごとちゃ混ぜにします。混ぜご飯は素材を新鮮なまま活かし酢で絡めて桶に盛ります。



その違いは何なのか。それは、個性までもちゃ混ぜにしては面白くないということ。これからの時代を生きる上で大事なことは「競い合う」時代から、お互いが“ちがいを”「認め合う」時代にならないといけなことを実感しました。個性を大切にしよう、です。

一人一人の個性や考えを活かしながら、課題を見つけてそれに一緒に取り組むことの大切さと、そのことに取り組む”地域プロデューサー”こそが、世の中を少しずつ変えてゆくのだと思いました。自分なりに「地域プロデューサー」は、どう動かすかを考えました。

今、私には一つライフワークにしている”しごと”があります。少し説明が難しいのですが、滋賀県という地域の魅力を情報発信し、もっと多くの来訪者呼び起こし交流人口を増やして、地域を元気にしようという地域観光プロデューサーの仕事に取り組んでいます。

しかし、道程はなかなか遠いのです。だから、面白いのだと自分に言い聞かせ、ぶれずに、地域プロデューサーの道を歩み続けます。

イベント 第3回協働サロン
「アート」でつくる住みごこち
ちよいまちづくり

アートやまちづくりに関心のある方、これからの社会をはじめ、いろいろなことが気になる方、いっしょに話をしてみませんか。まちとアートをテーマに活動している門脇篤氏を宮城・仙台からお呼びし、全国での取り組みや被災地で生まれつつある意識や社会についての報告を聞くとともに、参加者どうしのグループワークを行います。詳細はH.Pで。

- ◇開催日時：12月9日(日) 13:00～17:00
- ◇場所：集り処 縁(ゆかり)
草津市草津2丁目5-15
- ◇講師：門脇 篤さん
(門脇篤まちとアート研究所 主宰)
話題提供「アートでまちを元気に」
- ◇定員：30名
- ◇参加費：500円
- ◇主催：淡海ネットワークセンター
- ◇共催：文化・経済フォーラム滋賀

講座 マネジメント講座
地域課題を解決するために
共感を産むPRとは？

NPOの活動や市民事業に取り組もうとすると、団体のサービスやマーケットの開拓のためのPRは大切なポイントです。また、地域で共感を得て活動することも同じようなことがいえます。人々に広く知らせることで理解してもらおうこと、売り込み、自己宣伝＝PRの仕組みや方法を学び、次なる展開を目指し、市民事業化を目指している団体、地域で活動している市民団体は是非ご参加ください。詳細はH.Pで。

- ◇開催日時：12月14日(金) 13:30～16:40
- ◇場所：県民交流センター 204会議室
(ピアザ淡海)
- ◇講師：神崎 英徳さん
(株式会社PRリンク代表取締役)
講演「メディアを通して、活動の共感を広げる方法」
- ◇参加費：500円

イベント 未来ファンドおうみフォーラム
～子どもたちに伝えたい、
未来、勇気、ささえあう心～

市民の想いを込めた寄付で市民活動を支える仕組み「未来ファンドおうみ」。民が民を支える社会について考えるフォーラムを開催します。

小惑星探査機はやぶさプロジェクトを成功に導き、またNPO法人の会長として子どもたちに宇宙やいのちの大切さについて伝える的川泰宣さんから、これからの日本についてお話いただきます。地域の課題解決に向けて活動する市民活動団体との出会いもあります。詳細はH.Pで。

- ◇日時：2月11日(祝・月) 13:30～16:00
- ◇場所：県民交流センター(ピアザ淡海)大会議室
- ◇基調講演：「はやぶさを産んだ文化とこれからの日本」的川泰宣氏(宇宙航空研究開発機構 名誉教授・技術参与/認定NPO法人子ども・宇宙・未来の会 会長)

募集 未来ファンドおうみ助成事業
2013募集が始まります！

市民の想いを込めた寄付を市民活動へつなぐ未来ファンドおうみ助成事業の募集が始まります。多くの市民からお寄せいただいた寄付をみなさんが取り組む市民活動へつなげてください。詳細はH.Pで。

- ◇募集期間：2012年12月1日(土)～2013年1月20日(日)
- ◇助成期間：2013年4月～2014年3月
- ◇募集内容：助成事業
 - ①おうみNPO活動基金助成
 - ②びわこ市民活動応援基金助成
 - ③びわ湖の日基金助成
 - ④積水化成品基金助成
- 表彰事業：「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」募集
- 寄付支援事業：おうみチャレンジ基金助成

イベント 淡海ネットワークセンター15周年記念講演会
「よりよい滋賀をともに支える社会のために」

地域の課題を自ら解決しようとする市民を支え、市民、企業、行政など多様な主体が広がって、よりよい地域づくりをめざす淡海ネットワークセンターは設立から15年を迎えます。これまでの取り組みを振り返るとともに、よりよい滋賀を一人ひとりの市民が主役として市民社会に関わり支える社会をめざし、多様な主体とともに担うべき役割について、日本NPOセンター顧問 山岡義典氏からお話をお聞きます。詳細はホームページをご覧ください。

- ◇日時：1月14日(祝・月) 9:30～11:30
- ◇場所：県民活動センター(ピアザ淡海)大会議室
- ◇講演：「地域のニーズに応えるための力とNPOの責任」(仮)
山岡義典氏(日本NPOセンター 顧問)

同時開催

- 対話からアクションへ びわ卓フォーラム2013
1月14日(祝・月) 11:30～17:00
県民交流センター(ピアザ淡海)大会議室・中小会議室

市民活動をしていると素敵の方にたくさん出会います。阿部さんは、私が「こんな風に年を重ねたい」と思う女性の1人です。アンダンテというのは歩くようにという音楽用語ですが、阿部さんは一生懸命、楽しく早足で歩いておられる感じがしました。私も楽しく生きようと元気が出てくる取材でした。(おうみネットサポーター 山名朋希)

取材させていただいた田代さんは、企業を定年退職直後に滋賀県立大学の近江環人で学んだ経験をお持ちですが、その時のテーマが「頭と体を作り変える」だったそうです。そして今、これまでの経験をフル活用してアクティブなセカンドライフを送ってられます。「こんな人生を歩みたい」と思う人に出会えた取材でした。(おうみネットサポーター 小林政夫)

お話をうかがったKOKOKUの居川さんと佐野さんのように、ふるさとへの思いと「楽しさ」でつながり、一緒にまちづくりをしようという若いみなさんがいることが、何より素敵な湖北の魅力。今後も応援します！(おうみネットサポーター 小林由季)

淡海
おうみネット 84

●2012 冬号●



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801
大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440
- FAX 077-524-8442
- http://www.ohmi-net.com
- E-mail:office@ohmi-net.com
- 開館時間／9:00～17:00
休館日／月曜日・祝日

●情報交流紙「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中！

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約2,000カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円

詳細は、当センターまでお問い合わせください！



おたがいさまがつながり、活きる。



個人の気持ち、企業のCSR
様々な「志」を地域に支える市民活動へ、
しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、
淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。